

計画の進捗状況評価及び課題整理

1. 計画の背景

文京区では、地域での地球温暖化対策を総合的、計画的に進めるため、2010（平成 22）年 3 月に、「文京区地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、区民・団体、事業者、区の各主体で対策に取り組んできました。本計画策定以降、2011（平成 23）年 3 月に発生した東日本大震災を契機とした節電意識やエネルギー問題への関心の高まり等の社会的背景を踏まえ、2015（平成 27）年 3 月に中間見直しを行いました。

【計画の概要】

■目的

区民・団体、事業者、区等のあらゆる主体で取り組み、文京区の地域に係る地球温暖化対策を総合的、計画的に進め、地球温暖化防止に貢献する。

■計画期間

2010（平成 22）年度から 2019（令和元）年度の 10 年間

■対象とする温室効果ガス

本計画で対象とする温室効果ガスは、区の温室効果ガス排出量の約 90%を占める二酸化炭素を対象として削減目標を設定する。

■二酸化炭素排出削減目標（2005（平成 17）年度比）

- ・総量目標（2019（令和元）年度）：2005（平成 17）年度比 ▲14%
（中間見直し前 12%削減）
- ・部門別目標（2019（令和元）年度）：民生家庭部門 2005（平成 17）年度比 ▲612kg-CO₂/世帯（▲21%）
（中間見直し前 25%削減 ※サブ目標扱い）
- 民生業務部門 2005（平成 17）年度比 ▲2,985kg-CO₂/100m²（▲28%）
（中間見直し前 23%削減 ※サブ目標扱い）

2. 2020（令和 2）年度進捗状況評価の位置づけ

■対象年度：2019（令和元）年度

- ・計画は 2010（平成 22）年度からであり、2019（令和元）年度は 10 年目の最終評価とする。
- ・区民・団体、事業者のアンケート結果は、2020（令和 2）年度実施のものを、2019（令和元）年度の実績として評価する。

3. 計画の進捗評価

3.1 進捗評価方法

進捗評価は、本計画で設定した「代表指標（エネルギー消費量・アクションプラン実施状況）」及び「各主体における個々のアクションプラン取組状況」に基づき、定量的に実施しました。

表 3-1 代表指標（エネルギー消費量・アクションプラン実施状況）の評価方法

基準		評価
推移（傾向）	2019（令和元）年度目安に対して上回った（良好）	目安を上回った
推移（傾向）	2019（令和元）年度目安に対してほぼ同等	目安と同等
推移（傾向）	2019（令和元）年度目安に対して下回った（不良）	目安を下回った

表 3-2 各主体における個々のアクションプラン取組状況の評価方法

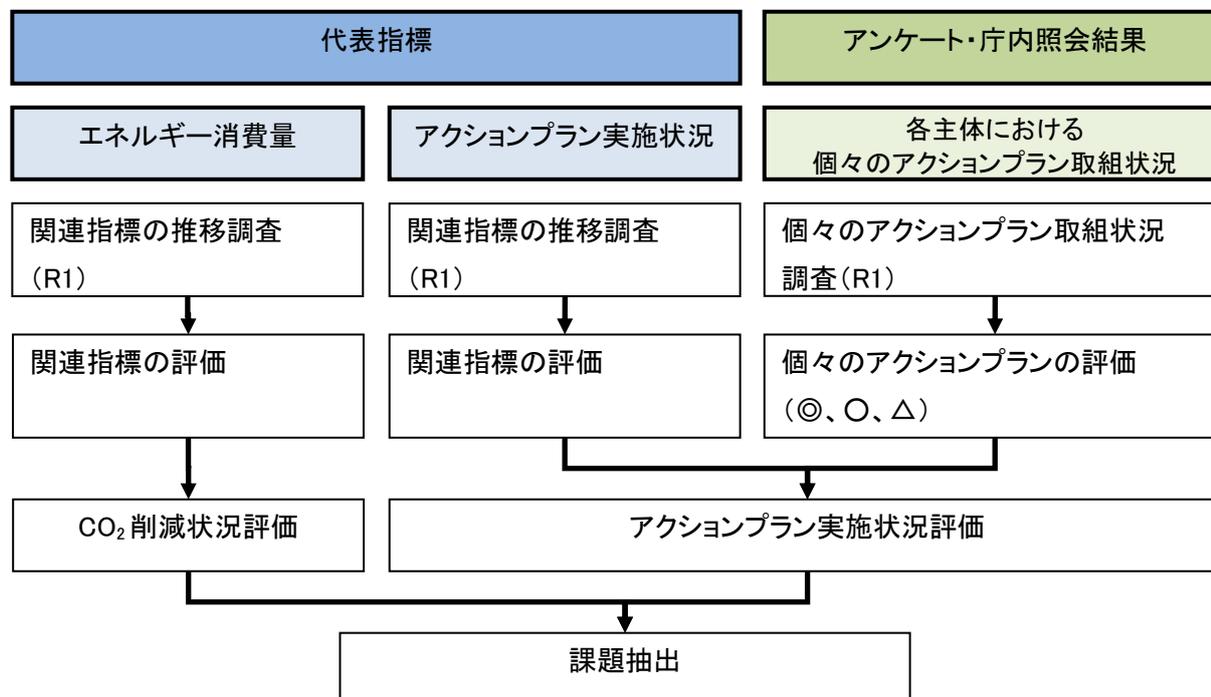
基準		評価 ^{※1}
アクションプラン大分類 ^{※2}	アクションプラン小分類 ^{※2}	
小分類における◎の割合が 2/3 以上	実施率が 2/3 以上	◎
小分類における◎の割合が 1/3 以上 2/3 未満	実施率が 1/3 以上 2/3 未満	○
小分類における◎の割合が 1/3 未満	実施率が 1/3 未満	△

※1 不可抗力の理由で実施できない回答は評価対象から除いている。

例) 自動車の定期点検の実施状況を確認する設問において、そもそも自動車を保有していない場合などを除外

※2 各主体における個々のアクションプランは、取組内分野別に大分類・小分類の 2 階層の構成となっている。

図 3-1 評価のフロー



3.2 代表指標の評価

(1) エネルギー消費量

電力及び都市ガスのエネルギー消費量については、電力小売全面自由化及びガス小売全面自由化によりデータの把握が困難となりました。

2016（平成 28）年度以降の電力消費量の推移は、「表 3-4」のとおり、総合エネルギー統計に基づく、全国値からの按分推計による評価となります。電力消費量は、2013（平成 25）年度から 2018（平成 30）年度までの間、2017（平成 29）年度に微増したのを除いて減少しています。2019（令和元）年度は総合エネルギー統計の統計データが未公表であるため、2019（令和元）年度は評価不可能となっています。

表 3-3 代表指標の推移（エネルギー消費量）

分類	指標	見直し時 2013	実績 2014	実績 2015	実績 2016	実績 2017	実績 2018	実績 2019	評価	将来の目安 2019
エネルギー消費量※1	電力消費量 (億 kWh)	16.8	16.1	15.4	—	—	—	—	—	14.0
	都市ガス消費量 (1000 万 m ³)	7.9	7.8	7.5	7.6	7.5	7.5	—	—	7.2

※1 エネルギー消費量のうち、電力消費量と都市ガス消費量の2つを代表指標としている。

図 3-2 代表指標の推移（エネルギー消費量）

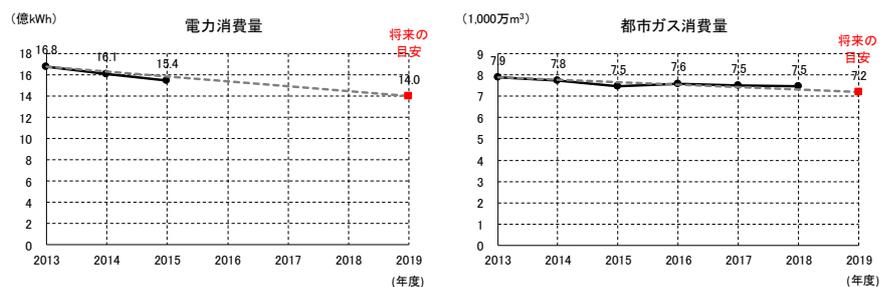


表 3-4 代表指標の推移（電力消費量を按分推計した場合）

分類	指標	見直し時 2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	評価	将来の目安 2019
エネルギー消費量※2	電力消費量※3 (億 kWh)	18.7	18.4	17.9	17.0	17.1	16.7	—	—	15.6

※2 総合エネルギー統計（経済産業省資源エネルギー庁）に基づく各部門の電力消費量について、世帯数（民生家庭）、製造品出荷額（産業・製造業）等の統計データを用いて、区内電力消費量を按分推計したものを指標としている。

※3 電力消費量を全国値から按分推計したことにより、計画見直し時（2013（平成 25）年度）の値が変わったため、将来の目安を、実績値を用いた指標と同等の削減を見込んだ値に修正している。

図 3-3 代表指標の推移（電力消費量を按分推計した場合）

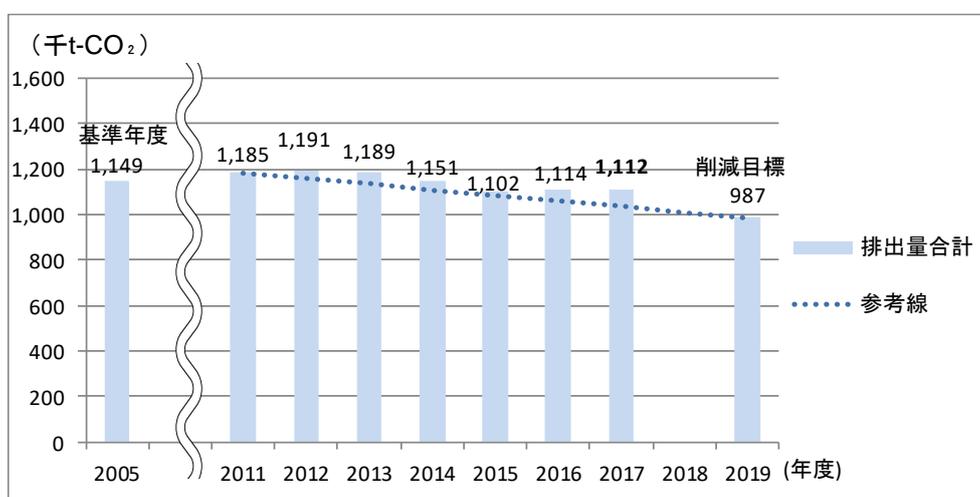


(2) 文京区における二酸化炭素総排出量・エネルギー消費量の推移

文京区における二酸化炭素総排出量は、オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」による「温室効果ガス排出量算定手法に関する説明書」を基に把握しています。二酸化炭素排出量は、2012（平成 24）年度から 2015（平成 27）年度まで毎年減少していましたが、2016（平成 28）年度に増加しました。2017（平成 29）年度は前年度より 2 千 t-CO₂ 減少し、基準年度（2005（平成 17）年度）比で 3.2%の減少となりました。

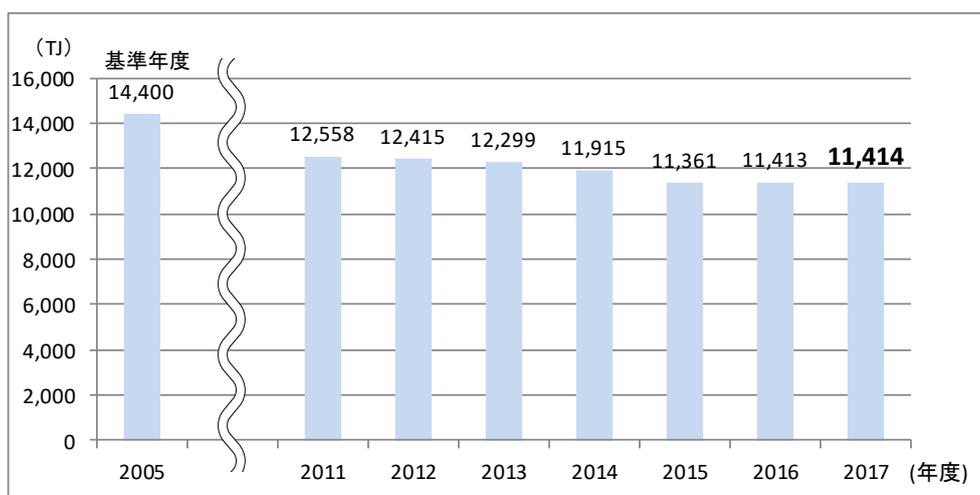
また、二酸化炭素排出量の大部分がエネルギー消費に由来するため、エネルギー消費量の推移を参考値として併せて把握しています。エネルギー消費量は 2011（平成 23）年度から 2015（平成 27）年度まで毎年減少していましたが、2016（平成 28）年度に増加しており、2017（平成 29）年度も前年度から微増しました。基準年度と比較すると 20.7%減少しています。

図 3-4 文京区における二酸化炭素排出量の推移（2011（平成 23）年度以降排出係数固定）



出典)「温室効果ガス排出量算定手法に関する説明書（オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト）」より作成

図 3-5 文京区におけるエネルギー消費量の推移（参考）



出典)「温室効果ガス排出量算定手法に関する説明書（オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト）」より作成

※ J（ジュール）とは、エネルギーなどの単位で、1ワットのエネルギーを1秒間使用した量に相当する。
また、T（テラ）は10の12乗倍（1兆倍）を意味する。

(3) アクションプラン実施状況の評価

2019（令和元）年度における代表指標は、区民・団体、区それぞれが 1/3 の項目で将来の目安を上回りました。しかし、事業者の代表指標は 2 指標とも将来の目安を下回りました。

「区内再生可能エネルギー設備導入量」、「街路灯・保安灯の LED 導入灯数」、「環境ライフサポーター延登録数」は、将来の目安を大きく上回りました。

区民・団体、事業者ともに、地球温暖化対策の行動に関する取組意識は 8 割以上を維持しましたが、より一層の向上を図る必要があります。

事業者の「地球温暖化対策報告書制度」の提出件数は、2017（平成 29）年度以降は目安を下回っており、2019（令和元）年度は前年度より増加となりましたが、将来の目安を下回りました。また、「区内 CO₂ 排出量」は、2019（令和元）年度は前年度より減少したものの、将来の目安を下回りました。

表 3-5 代表指標の推移（アクションプラン実施状況）

主体	指標		見直し時 2013	実績 2014	実績 2015	実績 2016	実績 2017	実績 2018	実績 2019	評価	将来の目安 2019
区民・ 団体	地球温暖化に対する意識向上率※1	(%)	—	96	91	93	91	91	94	目安を下回った	100
	区内再生可能エネルギー設備導入量	(kW)	2,641	2,955	3,313	3,609	3,741	4,134	4,354	目安を上回った	3,500
	一人一日当たり家庭ごみ排出量	(g/人・日)	405	386	379	369	362	354	349	目安を下回った	345
事業者	地球温暖化に対する意識向上率※1	(%)	—	92	88	84	87	89	85	目安を下回った	100
	「地球温暖化対策報告書制度」の提出件数	(件)	580	656	613	643	624	627	662	目安を下回った	700
区	区内 CO ₂ 排出量※2	(t-CO ₂)	15,885 (18,402)	15,337 (17,343)	15,117 (16,160)	15,763 (17,403)	15,013 (15,853)	15,548 (16,563)	15,323 (15,729)	目安を下回った	12,483
	街路灯・保安灯の LED 導入灯数	(灯)	2,022	2,825	3,466	4,078	4,712	5,365	6,025	目安を上回った	4,500
	環境ライフサポーター延登録数	(人)	—	—	37	76	117	163	212	目安を上回った	90

※1 実績値はアンケートにおける「地球温暖化対策の行動（アクションプラン）に関する取組意識」の集計結果を採用している。アンケートは 2020（令和 2）年 5 月頃に実施しているため、その前年度の実績として取り扱うこととする。

※2 上段の数値は 2011（平成 23）年度排出係数を、下段の（ ）内の数値は各年度の排出係数を用いて算定している。

図 3-6 代表指標の推移（区民・団体のアクションプラン実施状況）

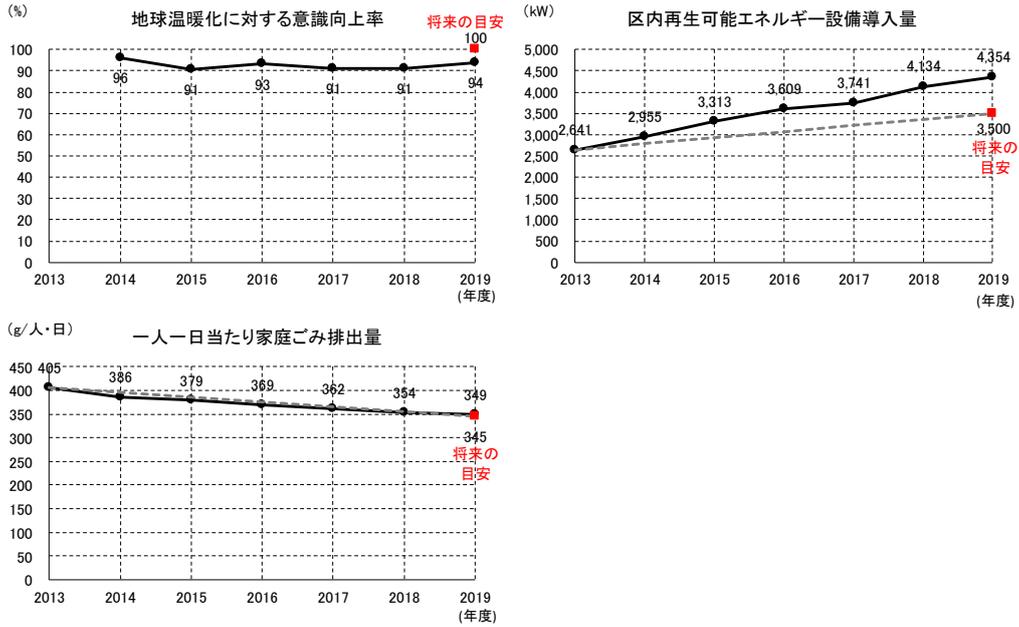


図 3-7 代表指標の推移（事業者のアクションプラン実施状況）

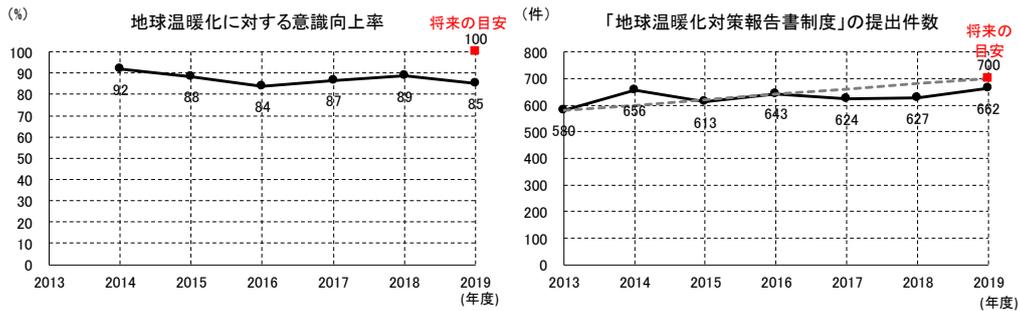
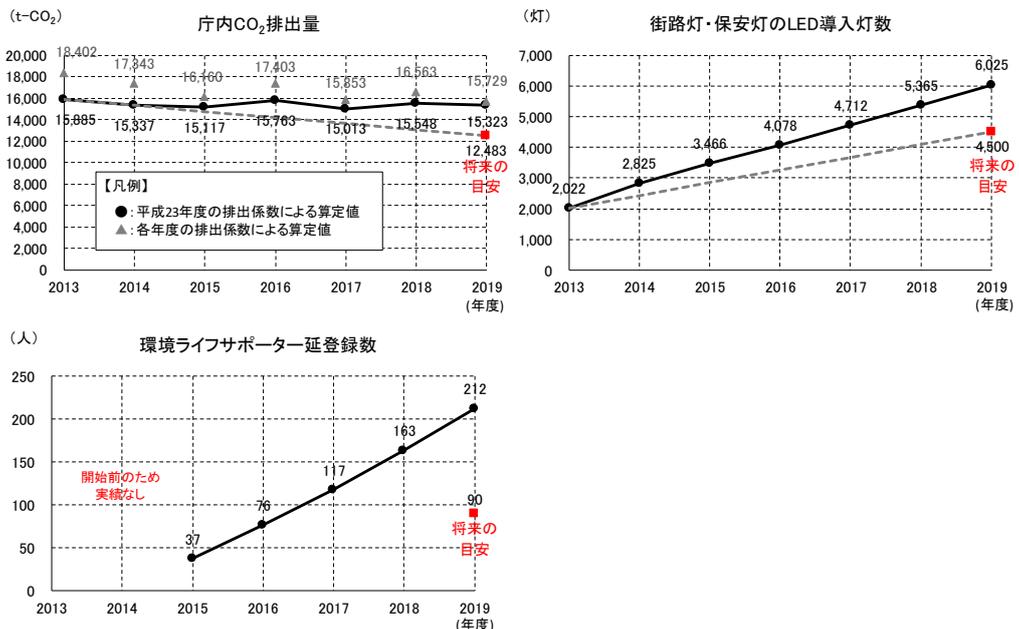


図 3-8 代表指標の推移（区のアクションプラン実施状況）



3.3 各主体における個々のアクションプラン取組状況の評価

(1) 区民・団体

アンケートによる区民のアクションプランは、「再生可能エネルギーの導入・省エネルギーの実践」、「自動車から排出されるCO₂の削減」、「3R（ごみの発生抑制、再使用、リサイクル）の実践」が比較的十分に取組まれています。一方で、「地球温暖化に関する意識の向上」、「緑化への取組」は、取組が十分でないと考えられます。

団体のアクションプランは、「地球温暖化対策の普及啓発活動」、「ネットワークづくり」とともに比較的十分に取組まれています。

表 3-6 各主体における個々のアクションプラン取組状況の評価（区民・団体）

主体	アクションプラン		評価	
	大分類	小分類	2019 (R1)	
区民	1 地球温暖化に関する意識の向上	家庭でのエネルギー消費量を把握	○	
		家の大きさや世帯構成が似た世帯と自分のエネルギー消費量を比較	△	
		家庭で地球温暖化問題について話し合い、ルールを決めて行動	○	
		毎月7日をクールアース・デーとして、「我が家の省エネルギー」を実践	△	
		環境に配慮した製品の購入	◎	
	大分類評価			△
	2 再生可能エネルギーの導入・省エネルギーの実践	再生可能エネルギー設備の導入	△	
		省エネルギー機器や設備の導入	◎	
		住宅の断熱化による省エネルギー化	○	
		日常的に個人レベルでの省エネルギーを実践	◎	
	大分類評価			○
	3 自動車から排出されるCO ₂ の削減	「徒歩での移動」または「自転車利用」の実践	◎	
		公共交通機関の利用	◎	
		環境にやさしい運転	◎	
		自動車の定期点検	◎	
		次世代自動車等への買替え	○	
	大分類評価			◎
4 緑化への取組	住宅の敷地内の緑化	○		
大分類評価			△	
5 3R（ごみの発生抑制、再使用、リサイクル）の実践	ごみを抑制する行動の実践	◎		
大分類評価			◎	
団体	1 地球温暖化対策の普及啓発活動	各種イベントの活用	◎	
		環境学習やイベントの開催	◎	
		省エネルギー化へのアドバイスの実施	△	
		地域独自のエコポイントの導入など、各主体が連携した取組の実践	△	
		3R(ごみの発生抑制、再使用、リサイクルの実践)の実践	◎	
		地域における緑化推進活動	◎	
	大分類評価			○
	2 ネットワークづくり	各主体の連携のきっかけ作り	◎	
		活動の情報発信	◎	
	大分類評価			◎

(2) 事業者

アンケートによる事業者のアクションプランは、「自動車から排出される CO₂ の削減」、「緑化への取組」、「3R（ごみの発生抑制、再使用、リサイクル）の実践」が比較的十分に取組みられています。一方で、「地球温暖化対策の普及啓発活動・意識の向上」、「再生可能エネルギーの導入・省エネルギーの実践」は、取組が十分でないと考えられます。

表 3-7 各主体における個々のアクションプラン取組状況の評価（事業者）

主体	アクションプラン		評価	
	大分類	小分類	2019 (R1)	
事業者	1 地球温暖化対策の普及啓発活動・意識の向上	省エネルギーや二酸化炭素排出量の削減についての具体的な目標設定と取組の実践	○	
		イベントや講座への積極的参加	○	
		イベントや講座の開催	△	
		地域との連携	△	
		環境に配慮した製品の購入	◎	
		エネルギー消費量について、同業種の他企業との情報交換	○	
	大分類評価			△
	2 再生可能エネルギーの導入・省エネルギーの実践	再生可能エネルギー設備の導入	△	
		省エネルギー機器や設備への切り替え	◎	
		「地球温暖化対策報告書制度（東京都）」への参加	△	
		エコオフィスによる活動などの組織的な取組の実践	○	
		職場で個人レベルでの省エネルギーを実践	◎	
		毎月7日をクールアース・デーとして「我が社の省エネルギー」を実施	△	
		省エネルギー診断の利用や ESCO 事業の導入	△	
		建物の断熱化	△	
		事業所におけるエネルギー管理の実践	△	
		CO ₂ の見える化	△	
	外注先や関連企業などに対し、省エネルギー行動実践の要請	△		
	大分類評価			△
	3 自動車から排出される CO ₂ の削減	「徒歩での移動」または「自転車の利用」の実践	◎	
		駐輪場の確保	○	
環境にやさしい運転		◎		
自動車の定期点検		◎		
次世代自動車等への買替え		○		
大分類評価			○	
4 緑化への取組	事務所内の緑化	◎		
大分類評価			◎	
5 3R（ごみの発生抑制、再使用、リサイクル）の実践	ごみを抑制する行動の実践	◎		
	事業活動における取組の実践	◎		
	環境配慮設計及びその周知の徹底	○		
大分類評価			◎	

(3) 区

区のアクションプラン取組状況は、「地球温暖化対策の普及啓発・推進」、「区民・団体、事業者への取組支援」、「率先行動」、「地球温暖化への適応策の推進」、「計画等の着実な推進」の全てにおいて、概ね順調に実施されました。

表 3-8 各主体における個々のアクションプラン取組状況の評価（区）

主体	アクションプラン		評価	
	大分類	小分類	2019※ (R1)	
区	1 地球温暖化対策の普及啓発・推進	区報・ホームページ・情報誌など様々な媒体による情報発信	◎	
		イベントの開催/学習の推進	◎	
		「文京版クールアース・デー」の実施	◎	
	大分類評価			◎
	2 区民・団体、事業者への取組支援	協働・協治の推進/NPO等への参加・活動支援	再生可能エネルギー機器や設備の普及啓発・導入支援	◎
			省エネルギー機器や設備の普及啓発・導入支援	◎
			省エネナビやエコワット、環境家計簿の普及啓発	◎
			事業活動における環境マネジメントシステムの普及促進	◎
			省エネ診断の普及啓発	◎
			省エネビルの普及促進	◎
			環境に配慮した消費者（グリーンコンシューマー）行動の普及促進	◎
			各種啓発事業による間接的な省エネルギー行動の推進	◎
			移動手段の見直しに関する意識啓発	◎
			公共交通機関の利用促進	◎
			総合的自転車対策の実践	◎
			エコドライブの普及促進	○
			カーシェアリングの普及啓発	◎
			次世代自動車等の普及啓発	◎
			みどりの保護・育成の促進	◎
			みどりの保全	◎
			環境改善舗装の実施	◎
			雨水利用の推進	○
			区民一人一日当たりのごみ量削減のための啓発	◎
			区内リサイクル率の向上	◎
	リサイクルに関するイベントの開催/学習の推進	◎		
	低炭素に向けたまちづくり	◎		
	大分類評価			◎
	3 率先行動	施設の省エネルギー化・再生可能エネルギーの導入	環境に配慮した物品・資材等の活用	◎
			職員への意識啓発	◎
省エネルギー行動の実践、省エネルギー行動の導入			◎	
3R（ごみの発生抑制、再使用、リサイクル）の実践			◎	
大分類評価			◎	
4 地球温暖化への適応策の推進	熱中症予防等の推進	感染症予防等の推進	◎	
		集中豪雨等による都市型水害に強いまちづくり	◎	
		大分類評価		
5 計画等の着実な推進	庁内推進体制の整備/地球温暖化対策実行計画の再構築による対策強化	様々な二酸化炭素排出量削減の方策の検討	◎	
		地球温暖化対策に関連する各種計画の着実な推進	◎	
		大分類評価		

主体	アクションプラン		評価
	大分類	小分類	2019※ (R1)
		国や東京都、他自治体等との連携・情報交換	◎
大分類評価			◎

※ 庁内照会により、2019（令和元）年度の取組状況について調査している。

3.4 進捗評価のまとめ

2019（令和元）年度における計画の進捗状況は、代表指標（エネルギー消費量）においては、電力消費量及び都市ガス消費量ともに入手困難となったため、最終年度における正確な評価は不可能となりました。

各主体における個々のアクションプラン取組状況を下記に示します。

(1) 区民

区民のアクションプランの取組状況については、「家の大きさや世帯構成が似た世帯と自分のエネルギー消費量を比較」、「毎月7日をクールアース・デーとして、『我が家の省エネルギー』を実践」、「再生可能エネルギー設備の導入」の実施率が継続して低くなっています。

表 3-9 区民のアクションプラン実施率

アクションプラン	取組例	実施率					
		2014年度 (H26) ※1	2015年度 (H27) ※2	2016年度 (H28) ※3	2017年度 (H29) ※4	2018年度 (H30) ※5	2019年度 (H31) ※6
① 地球温暖化に関する意識の向上							
家の大きさや世帯構成が似た世帯と自分のエネルギー消費量を比較	・ホームページを参照するなどして、電力や都市ガスの消費の仕方を他の家庭と比べる。	29%	19%	25%	26%	31%	24%
毎月7日をクールアース・デーとして、『我が家の省エネルギー』を実践		9%	4%	7%	7%	8%	7%
② 再生可能エネルギーの導入・省エネルギーの実践							
再生可能エネルギー設備の導入	・太陽光発電システム・太陽熱温水器・ソーラーシステムを設置する。	4%	4%	5%	9%	13%	8%

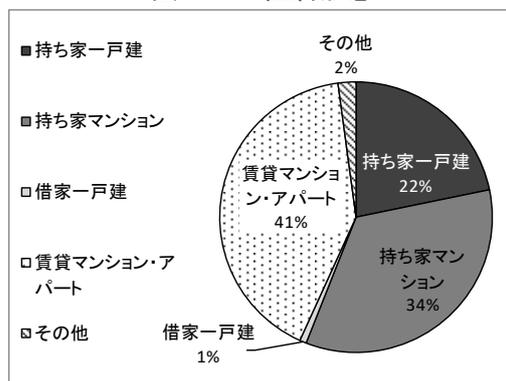
「家の大きさや世帯構成が似た世帯と自分のエネルギー消費量を比較」、「毎月7日をクールアース・デーとして、『我が家の省エネルギー』を実践」を実施しない理由として、「関心がない・必要性を感じない」「効果がわからない」が多い結果となりました。

「再生可能エネルギー設備を導入している」を実施していない理由は「質問に該当するものを持っていないから」が最も多く、集合住宅等により個人での導入が困難な世帯が多いためと考えられます（参考：住居形態）。

【参考：住居形態】

2020（令和2）年度5月に実施した地球温暖化に関するアンケートでは、持ち家一戸建が22%、持ち家マンションが34%、賃貸マンション・アパートが41%となっており、集合住宅が約8割を占めています。

図 3-9 住居形態



出典：2020年地球温暖化に関するアンケート区民・事業者・団体の集計分析結果

(2) 団体

団体のアクションプランの取組状況については、2019（令和元）年度の「省エネルギー化へのアドバイスの実施」の実施率が1/3未滿となり、アンケート開始から初めて評価が△となりました。実施しない理由として、「組織の活動対象ではない」が最も高くなりました。

「地域独自のエコポイントの導入など、各主体（区民・団体、事業者、区）が連携した取組の実践」は、2018（平成30）年度から二年連続で実施率が1/3未滿となりました。実施しない理由として、「組織の活動対象ではない」が最も高くなりました。

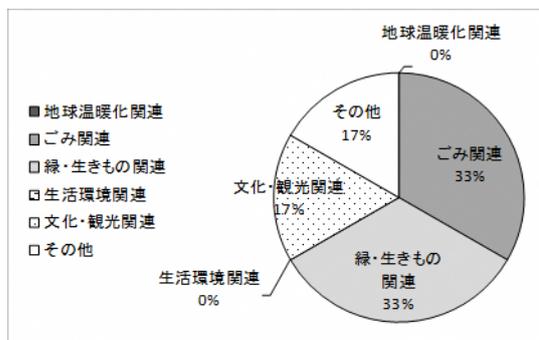
表 3-10 団体のアクションプラン実施率

アクションプラン	取組例	実施率					
		2014年度 (H26) ※1	2015年度 (H27) ※2	2016年度 (H28) ※3	2017年度 (H29) ※4	2018年度 (H30) ※5	2019年度 (H31) ※6
① 地球温暖化対策の普及啓発活動							
省エネルギー化へのアドバイスの実施	・「環境家計簿」などを活用して、アドバイスを行う。 ・省エネルギーに関する相談会などを実施する。	60%	44%	44%	86%	50%	33%
地域独自のエコポイントの導入など、各主体（区民・団体、事業者、区）が連携した取組の実践		50%	50%	44%	43%	17%	33%

【参考：活動分野】

2020（令和2）年度5月に実施した地球温暖化に関するアンケートでは、ごみ関連が33%、緑・生きもの関連が33%、文化・観光関連が17%、その他が17%となっており、地球温暖化関連は0%でした。

図 3-10 活動分野



出典：2020年地球温暖化に関するアンケート区民・事業者・団体の集計分析結果

(3) 事業者

事業者のアクションプランの取組状況については、「再生可能エネルギー設備の導入」、「『地球温暖化対策報告書制度（東京都）』への参加」、「省エネルギー診断の利用や ESCO 事業の導入」、「CO₂の見える化」の実施率がアンケート開始から継続して低くなっています。

表 3-11 事業者のアクションプラン実施率

アクションプラン	取組例	実施率					
		2014年度 (H26) ※1	2015年度 (H27) ※2	2016年度 (H28) ※3	2017年度 (H29) ※4	2018年度 (H30) ※5	2019年度 (H31) ※6
① 地球温暖化対策の普及啓発活動・意識の向上							
イベントや講座の開催	・事業所内で“省エネルギーコンテスト”を実施する。 ・小学校等への出前講座などを開催する。	10%	13%	8%	17%	18%	22%
地域との連携	・地球温暖化対策に関する情報を共有する。 ・地域との共同によるイベントや事業などを実施する。	27%	20%	21%	22%	25%	28%
② 再生可能エネルギーの導入・省エネルギーの実践							
再生可能エネルギー設備の導入	・太陽光発電システム・太陽熱温水器・ソーラーシステムを設置する。	8%	11%	10%	15%	13%	19%
「地球温暖化対策報告書制度（東京都）」への参加		16%	12%	6%	14%	11%	14%
毎月7日をクールアース・デーとして、「我が社の省エネルギー」を実施	・残業をせずに、夜間のエネルギー消費を減らす。 ・一斉消灯を実施する。	21%	24%	13%	18%	27%	33%
省エネルギー診断の利用や ESCO 事業の導入		9%	10%	10%	17%	14%	12%
建物の断熱化		27%	23%	19%	30%	18%	27%
事業所におけるエネルギー管理の実践	・毎月のエネルギー使用状況を把握する。	16%	30%	25%	46%	34%	32%
CO ₂ の見える化	・製造工程などで排出している二酸化炭素の数値について“見える化”を行う。	8%	13%	8%	24%	19%	14%
外注先や関連企業などに対し、省エネルギー行動実践の要請		17%	21%	20%	27%	20%	28%

「イベントや講座の開催」と「地域との連携」を実施しない理由として最も多いのは「質問に該当する事業がない」ですが、「関心がない・必要性を感じない」も多い結果となりました。

「再生可能エネルギー設備の導入」と「建物の断熱化」を実施しない理由は、「別途費用が発生するため経営上厳しい」が最も多くなっています。助成金の案内等ハード面の省エネ推進のための取組が求められます。

「毎月7日をクールアース・デーとして、『我が社の省エネルギー』を実施」について実施しない理由は、「関心がない・必要性を感じない」が多く、「省エネルギー診断の利用や ESCO 事業の導入」、「事業所におけるエネルギー管理の実践」、「CO₂の見える化」、「外注先や関連企業などに対し、省エネルギー行動実践の要請」は、「質問に該当する事業がないから」が多くなりましたが、「専門的なノウハウや効果が分からない」も多い結果となりました。

4. 課題の整理

進捗評価の結果を踏まえ、今後の確実な目標達成に向けた課題の整理を行いました。

表 4-1 課題整理

		代表指標 (エネルギー消費量)	代表指標 (アクションプラン実施状況)	各主体における個々の アクションプラン取組状況
進捗評価		— (評価不可能)	△ (十分でない部分あり)	△ (十分でない部分あり)
課題	対策 進捗	<p>代表指標(エネルギー消費量)は、電力消費量及び都市ガス消費量とも入手困難となったため、最終年度における正確な評価は不可能となった。</p> <p>新計画で新たに定めたCO₂排出量削減目標の達成に向けて、エネルギー消費量のさらなる削減に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>8つの代表指標のうち、「区内再生可能エネルギー設備導入量」、「街路灯・保安灯のLED導入灯数」、「環境ライフサポーター延登録数」の3つの代表指標の目安が達成した。</p> <p>一方で、5つの代表指標が目安未達となった。区民・団体、事業者ともに、地球温暖化対策の行動に関する取組意識は8割以上と高い水準を維持しているが、一層の向上を図る必要がある。</p> <p>これらの課題を踏まえ、新計画において、各主体が実施すべき行動促進を図り、区における省エネルギーや再生可能エネルギー導入等、CO₂排出量の削減に取り組んでいく。</p>	<p>区民のアクションプラン取組状況において、「家の大きさや世帯構成が似た世帯と自分のエネルギー消費量を比較」等、継続して実施率が低い取組があり、実施しない理由として「関心がない・必要性を感じない」「効果がわからない」が多くなっていることから、行動の必要性を周知することが必要である。</p> <p>事業者では、「省エネルギー診断の利用やESCO事業の導入」、「事業所におけるエネルギー管理の実践」、「CO₂の見える化」の実施しない理由として「専門的なノウハウや効果が分からない」が多いことから、制度等についての情報提供が求められる。</p>